



日高山脈博物館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

日高山脈博物館は「ジオ・ミュージアム」
道内唯一の地質と岩石の登録博物館！

通算 第84号

2024. 3.

不定期 日高のジオサイト紹介③

学芸員
コラム

サンゴの滝の上流にある人造の隧道

北海道や日高山脈の形成を経る、特徴的な地質の日高に数あるジオサイトの1つを紹介します。

前回に続き、さんごの沢（三号の沢）のジオサイトを紹介します。少々アプローチに時間がかかってしまうのですが、サンゴの滝上流にある人工の隧道跡も、人間の営みと地質を繋げる重要なジオサイトの1つであると考えます。

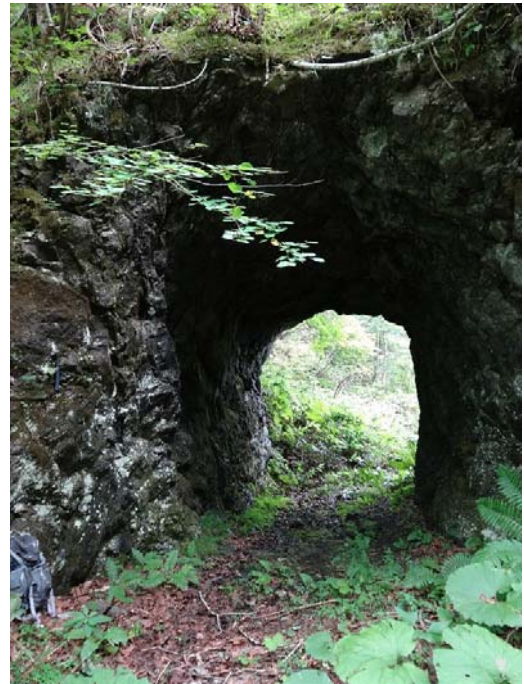
右下の地質図によると、三号の沢上流のサンゴの滝周辺は、白亜紀に形成された岩清水コンプレックスの緑色岩や砂岩泥岩、クロム鉱石を地下深くから持ち上げてきた蛇紋岩などが分布しています。ご存知のように、サンゴの滝は、クロム鉱石運搬用の道を作るため、岩盤を穿ち、上流の水を迂回させたもので、本流・三号の沢に落ちる滝ではなく、本流の左岸岩壁から合流する滝です。

サンゴの滝を右に見ながら、三号の沢をさらに上流へ、渡渉しながら進むと、木々に隠れて隧道が見えてきます。

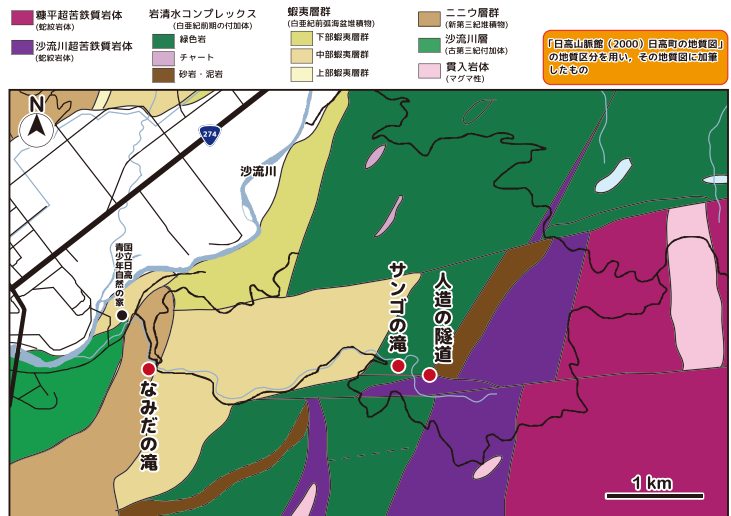
この隧道はかつてのクロム鉱石の運搬路で、隧道の両出口付近には、路盤であったであろう平らな地形がありますが、すぐに寸断されていました。平成15年の大雨災害時、三号の沢は氾濫し、沢沿いにあった遊歩道などは全て流失してしまいましたが、隧道は何とか残ったようです。隧道内部は、穿孔部周辺に特に補強されたような跡はなく、まさに岩石を穿ったということがわかりました。

この隧道を地質学的に観察すると、岩清水コンプレックスの変形泥岩を穿ったもので、上流側の出口には蛇紋岩が隣接し、隣接部の蛇紋岩は、細かく破碎されている部分があり、その蛇紋岩はさら上流に続いている様子が観察できます。

当時の様子やここに隧道を穿った理由を知る由はないのですが、崩れやすく現在の掘削技術でも難工事とされる蛇紋岩ではなく、それより堅いが崩れにくい変形泥岩を穿ったのは、岩石の特性をよく知る鉱山従事者の経験のあらわれではないだろうか、思いを馳せています。



岩清水コンプレックスの変形泥岩の露頭にぽっかりと開いた隧道（平成27年9月ごろの写真）。変形泥岩は大変堅いが、崩れにくかったのだろうか。



「日高山脈（2000）日高町の地質図」の地質区分を用い、その地質図に追加したもので

「ジオサイト」とは…？

特徴的な地球科学的価値のある地質（地層、岩石、鉱物、化石など）や地形が見られる場所や、それを前提とする、地質や地形が関係している生物の生態や人とのかかわり（文化など）を示す場所のことです。

日高山脈博物館のホームページ上でも掲載しています。こちらでは、写真などがカラーとなっています。ぜひ活用下さい。⇒ ホームページ (<http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc/>) の新着情報からどうぞ。